

◎ 協議内容

○ 令和3年度の校内研究について

- | | |
|-----------|---------|
| 1 研究主題 | 4 研究の重点 |
| 2 主題設定の理由 | 5 今後の計画 |
| 3 研究の組織 | |

○ 学力向上コーディネーターより(学校訪問について・他)

○ 学年部会(そのまま解散)

- ・1学期の見通し ・学校訪問授業者の確認 ・ふれあい道德について(中止)

○ 校長先生の話

○ 令和3年度の校内研究について

1 研究主題

昨年度；生徒が主体的に考え、協働的に取り組む道德科の工夫

「主体的」の捉え方→『自分ならどうするか』という観点から道德的価値と向き合うこと

「協働的」の捉え方→自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道德的価値を多面的・多角的に考えること

今年度； 生徒の成長を見取る道德科の授業を目指して

——「主体的・対話的で深い学び」を通して——

道德科における

「主体的・対話的で深い学び」→多様な価値観の、ときに対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道德としての問題を考え続ける姿勢

各教科における

「主体的な学び」の捉え方→学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

「対話的な学び」の捉え方→生徒同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める。

「深い学び」の捉え方→習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする。

「道德授業レシピ」文科省教科調査官 浅見哲也著より抜粋

2 主題設定の理由

いよいよ、今年度より「新学習指導要領」が全面実施される。今回の改訂で注目されているのは、「持続可能な開発目標（SDGs）の担い手の育成」が明記されたことである。新学習指導要領には、新たに設けた前文の中に「一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と明記されている。

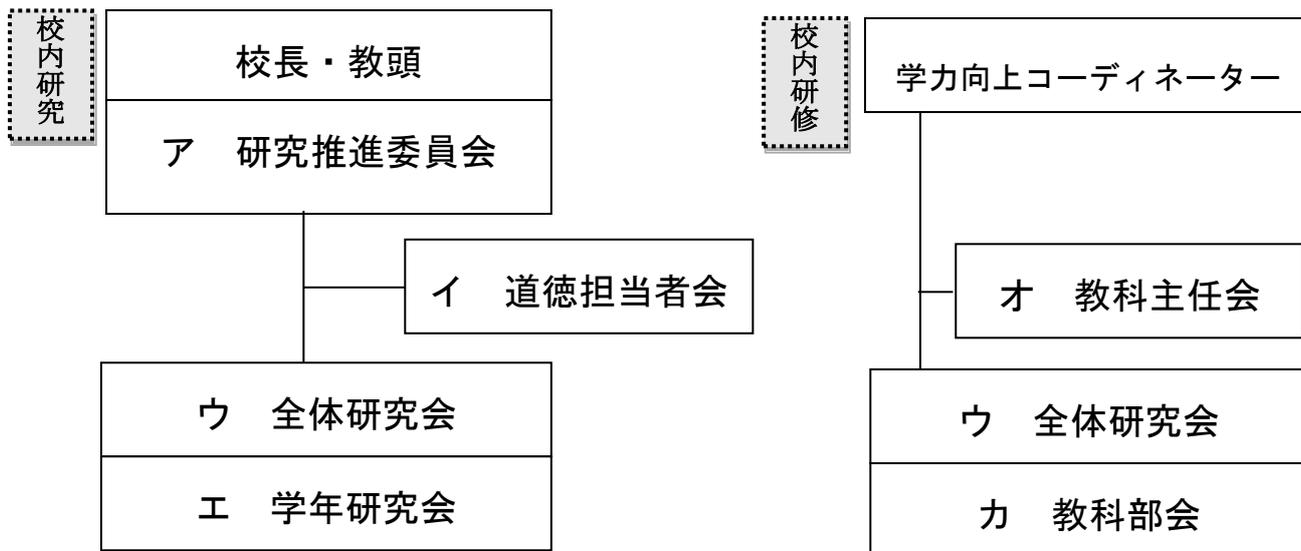
コロナ禍により今、教育現場は学力の保証や授業時数の確保にばかり目が向きがちである。しかし、コロナ禍はまさにSDGsが示す課題そのものである。複数の問題が、連鎖的かつ同時多発的に起きた。健康や福祉の問題だけでなく、自粛による企業活動の低下、雇用や貧困の問題、自殺者の増加。今こそ事象を関連付けたものの見方ができる生徒たちを育てなければならない。今回のような複雑に絡み合った問題へ対応できる人材を育てるには、やはり主体的・対話的で深い学びとカリキュラムマネジメントが必要である。

昨年度までの2年間は、「道徳教育の改善・推進に係る加配校」として、研究テーマを「生徒が主体的に考え、協働的に取り組む道徳科の工夫」とし、研究に取り組んできた。新学習指導要領の学習過程改善の視点「主体的・対話的で深い学び」が、「考え、議論する道徳」とつながるものとして、「学び合い活動」を授業の必須活動として位置づけ、生徒同士・教師と生徒の対話が生まれる授業スタイルができつつある。また、「学び合い活動」だけでなく、「発問」「板書」「評価」という視点からも授業改善を試みてきた。年度末の学校評価アンケートにおいて、問18「道徳の授業は、あなたの生活をよりよくするために役立っていますか」という問いに対し、全校生徒の回答は、あまりできていない6.2%（18人）できていない1.9%（5人）の存在は看過できないものの、できている59.9%、だいたいできている31.9%と、91.8%の生徒が高評価であった。道徳科での学びを、日常生活と関連付けるような指導を心掛け、自己を内省しつつ物事の本質について考える力、ともに理解し合い大切に作る人間関係をつくる力を育み、生徒の道徳性を高めようと、取り組んできた成果だと考えたい。加えて、「校内研究の成果と課題」のアンケートでは、「校内研は、自分の資質向上に役立ったか」において4段階中3.8、「今年度の校内研は本校の教育に役立ったか」において同3.7という高評価がみられ、ここでも研究の成果に手応えを感じている。一方で、「授業づくり（含教材研究）の準備の時間を確保することができたか。」において同2.9、「道徳科の評価はスムーズに行えたか。（「ツ・バ・キ」入力・ワークシートのチェック・感想集など）」において同2.5とやや低い数字が出ており、課題として残っている。準備時間は、授業構想を突き詰めていくほど足りなくなり、「働き方改革」の一言で解決できるものではない。評価においても改善の余地が大きい。本来、毎時の見取りから、生徒との関わり方を考えたり、発問の文言を工夫したりしていくことで、評価を意味あるものにできるのだが、実際は授業後ワークシートに目を通すことが精いっぱい、次週の授業の準備に追われ、評価の積み上げが生かせていない。今年度は、評価の方法を工夫し、授業改善や作業のスリム化ができないか考えていきたい。

評価については、各教科においても喫緊の課題である。「指導と評価の一体化」が求められ、「学習評価によって子供たちの資質・能力を伸ばす」「学習評価は、教員の授業改善のために行うとともに、子ども自身に自己の学びをメタ認知させ、さらに次の学びへと発展させるための支援」という評価観の転換のため、教科内・学校内での共通認識が必要となると思われる。

そこで、「見取る」というキーワードに、評価の意味合いを込めつつ、新学習指導要領に即したよりよい授業を目指して研鑽を積みたいと考え、本主題を設定した。

- 3 研究組織
- ・研究授業は、すべて道徳科で行う。
 - ・研究主任として道徳推進教師を置く。教科部会を学力向上コーディネーター主導とし、本研究とは別個のものとして研究を進める。
- (1) 組織図



(2) 組織の役割

ア 研究推進委員会

校長・教頭・教務・研究主任・道徳教育推進教師・学年推進委員で組織し、研究の方向性、研究の進め方について協議するとともに、研究の全体計画を立案する。

イ 道徳担当者会 ←随時、放課後

必要によって集まる。実践時に生じた問題点について話し合ったり、良かった手立てを共有したりして、学年に情報を伝える。
(道徳教育推進教師と各学年1名の道徳担当教師で組織)

ウ 全体研究会 ←月1、校内研の日

全職員で行う意思統一の場とする。職員全員で協議を重ねて、研究をより深めていく。

エ 学年研究会

全体研究会を受けて、授業を通して研究の重点を具体化させていく。
TT・学び合い活動の工夫や、生徒のワークシートの分析を行う。

オ 教科主任会 随時、放課後

必要によって集まる。教科指導において生じた問題点について話し合ったり、地区の主任会の内容を持ち寄ったりして、本校の評価について共通理解を図る。

カ 教科部会 随時、放課後も

全体研究会を受けて、各教科の研究内容を具体化させていく。

成果物；

道徳科

→HPの道徳コーナー更新

各教科

→各教科における学習評価の捉え方

【お約束】他の職員の授業参観を行う。(年間1回以上)・・・学期に1回参観するのが望ましい。
年間計画・授業参観シートを持参して下さい。

参観する場合はできるだけ事前に参観する授業の先生に一言参観の意思を伝えてください。
記入した授業参観シートは、コピーして、参観した授業の先生と上野に提出をお願いします。

3 研究の重点

(1) 道徳科について

- ・道徳科の時間は、必ず授業をすること。
 - ・構想シート等の略案を準備すること。
 - ・授業は、必ずTTで行うこと。
- (自立クラスは、TTでなくてもよい。)

☆学びの実践の場として、

- ・家庭・地域との連携
- ・学校行事・学級活動・生徒会活動との関連も、意識していきたいです。

→ 全体計画（別葉）参照

昨年度のデータを参考に、本年度も引き続き実践を積み上げたいです。

「昨年どおり」ととらわれず、いろいろなことに挑戦してください。 昨年度のデータ先↓

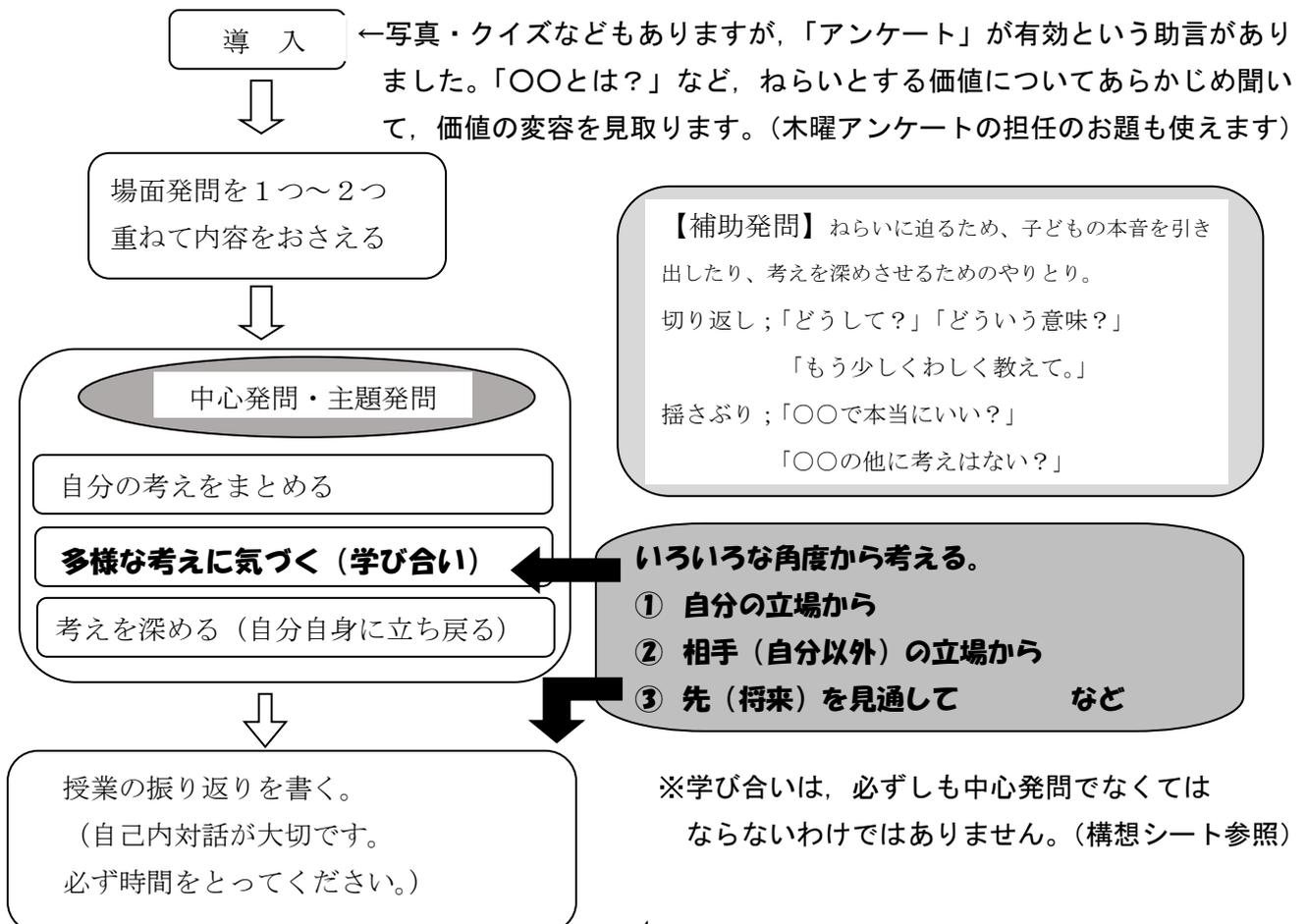
(共有→☆校務→R3→☆校務分掌→08 校内研→01 授業準備フォルダ→2020 までの授業実践参考に！)

① ねらいとする道徳的価値に迫る発問の工夫

場面発問＝教材の状況を把握したり、登場する人物の人間関係を把握したりする発問。中心発問に向かうための、補助的な発問。

中心発問＝本時でねらう価値に迫るために、生徒の多様な価値観を引き出すための発問。生徒が思わず話(主題)し合いたくなる(友達のを聞きたくなる)発問を！という指導を受け、各学年で推敲を重ねています。

※新学習指導要領では、「自分との関わりで考える」ことが重視されており、登場人物・場面に対する「自我関与」が中心の授業を行うことが求められています。



② 生徒同士が自分の思いを表現し、多様な価値観に触れることができる、**学び合い活動**の工夫

※毎時間、どこかで必ず「学び合い活動（生徒間の考えの交流）」の時間をとります。これが効果的に行われるよう、グルーピング、表現活動、考えの提示等の工夫を考えます。

「学び合い活動」の時間は、授業展開のなかで、より深めたい、またはより広げたいという授業者の思いがある発問でとります。学び合いの形態は自由ですが、目標は、ワークシートをもち個人で動き、「対話」ができるようになることです。もちろん段階的な指導が必要なため、最初はワークシートをもち、ペアからのフリーなど、生徒の状況に合わせていろいろやってみましょう。グループで学び合いの後、ホワイトボードで発表、というのもアリですが、ボードをそのまま黒板に貼るのではなく、授業者がまとめて板書すること、という指導を受けました。

授業者は、必ず構想シートを使って、あらかじめ授業の進め方を練っておいてください。昨年度のパターンを、校内研のフォルダに入れてありますので、それらを基に改良しながらご活用ください。

(共有→☆校務→R3→☆校務分掌→08 校内研→01 授業準備フォルダ→構想シート・WS)

上峰中学校道徳授業構想シート

◆主題名		月 日 () 年 組
内容項目	教材名・出典	
価値項目	1 ② 3・4	
本時のねらい		
生徒の発問を把握するために必要な発問の内容		
中心となる発問を主軸にするために必要な場面発問		
①		
②		
③		
◆テーマ (中心となる発問)		

上峰中学校道徳授業構想シート

◆主題名		月 日 (水) 4校時
(生徒に提示するもの)		
内容項目	教材名	
価値項目	②・③・④	
本時のねらい		
生徒発問にまつための導入・場面発問		
挿入		
場面①		
場面②		
場面③		
記入例		

<<道徳科授業Planing Seat>>

◆主題名		月 日 () 年 組
内容項目/価値項目	C -12 ①	社会生活の豊かさと社会連帯の自覚を高める。
教材名・出典	『和風の豊祭り』（朝日きりく 2年）	
本時のねらい		
導入：生徒の発問を把握するために必要なアンケートの活用等		
中心となる発問を主軸につなげるために必要な場面発問		
① 豊祭りの楽しみって何？		
② 地帳の豊祭りの中止を聞いて、和祭りはどんなことを考えただろう？		
③ 「こっちはセリフじゃ」とは、和祭りのどんな気持ちを持っているのだろう？		

道徳科における内容項目と価値項目

内容項目 (発出し)	価値項目
(1) 自主、自律、自由と責任	① 自覚の精神を重んじる。 ② 自主的に考え、判断し、誠実に実行する。 ③ 実行した結果に責任をもつ。
(2) 節度、節制	① 望ましい生活習慣を身に付ける。 ② 心身の健康の増進を図る。 ③ 節度を守り節制を心掛ける。 ④ 安全で調和のある生活をする。
(3) 向上心、個性の伸長	① 自己を見つめ、自己の向上を図る。 ② 個性を伸ばして充実した生き方を追求する。
(4) 希望と勇気、死に強い意志	① より高い目標を設定し、その達成を目指す。 ② 希望と勇気もち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。
(5) 真理の探究、創造	① 真実を大切にすること。 ② 真理を探究して新しいものを生み出そうとする。
(6) 思いやり、感謝	① 思いやりの心をもって人と接すること。 ② 家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝すること。

・ワークシートも、教科書付属のものを使ってかまいませんが、授業しやすいように変えてもいいです。いくつかのパターンを校内研のフォルダに入れてありますので、参考にしてください。

今年度は、価値項目まで定めてから、構想シートを作成してください。

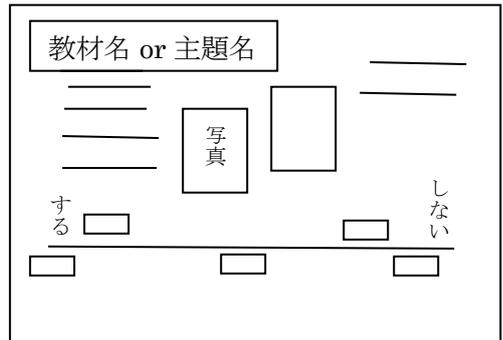
・構想シートの「振り返り」の欄（一番下の枠）に、授業後、必ず記入してください。

③ 生徒の思考を整理する授業展開の工夫（板書，TT）

※板書については，毎授業の板書をカメラで撮って頂き，板書のフォルダに入れてください。

（共有 → ☆写真・動画 → R3 → ☆校内研道徳 板書 → 学年 → 教材名）

従来の板書は縦書きで，右から左へ流れていくものが多かったですが，上中では横書きで，中央に中心発問がくるパターンを取り入れています。構造化しやすい，授業の組み立てが変わるといった効果があります。年度後半には，「発問を板書しないでおこう」という指導を受けました。また，中心発問以外の板書もなくいいのでは？という指導もありました。これも，生徒の状況を見ながら実践を進めていきたいです。右図はイメージです。昨年度の板書の



の写像があるので参考にしてください。昨年度，「立体的な板書を」という指導を受けました。例えば，生徒の考えを紙に書いて貼ると，動かすことができません。導入時の考えと並べて，比較することも可能です。また，設定した主題は板書に出さない，というお話もありました。

※道徳の授業は，必ずTTで行ってください。T1T2の組み合わせは自由です。学年裁量，なんならT1T2を決めなくてもいいと思います。昨年度多かったパターンは，T1 授業展開T2 板書（T1 略案T2 感想集2人で評価）でしたが，他のアイデアがあれば，いろいろ試してみましょう。ローテーション道徳をするなら，担任・副担だけでなく，担任同士・副担任同士の組み合わせもいいと思います。学年の状況にあわせ，柔軟な発想で取り組みたいですが，一部の人に授業が偏るのではなく，全員で取り組む姿勢をお願いします。

④ 「道徳科」の評価

道徳科の授業では，生徒の学習状況や，道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすように努める必要があります。新学習指導要領には，道徳科の目標は以下のように示されています。

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，①道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，②物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して，③道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

上峰中では，道徳科の目標および佐賀県道徳教育リーフレットに基づいて，以下の3点を評価の視点に定めています。

視 点	R 1	生徒のコメント（見取りの参考に）
① 道徳的価値の理解	ツ(1)	・～ということに気づきました。 ・～ということがわかった。わかりました。 ・～がいいと思った。思いました。 ・～は大事（大切）だと思った。思いました。
② 多面的・多角的な考え方	バ(2)	・私は～だと思っていたけれど，いろいろな意見を聞き，～という考え方もあることに気づきました。 ・私は，〇〇の立場から考えて～と思っていたけれど，▲▲から見たら，～と思うことに気づきました。
③ 道徳的な実践意欲・態度	キ(3)	・これからは～ながら，～したいと思います。 ・これからは，～も考えて，～しようと思います。 ・これからは，～したいと思います。

【道徳的価値の理解とは】

- 価値理解；内容項目を，人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること。
- 人間理解；道徳的価値は大切であっても，なかなか実現することができない人間の弱さ，反対にできた時のすがすがしさなどを理解すること。
- 他者理解；道徳的価値を実現したり，実現できなかつたりする場合の感じ方，考え方は一つではないこと。
- 自己理解；道徳的価値について，自分との関わりを含めて理解し，内省する。

※1 ローテーション道徳を行う際は，大きくりの評価のために，毎時間の評価を，エクセルファイルに残しましょう。生徒を1時間単位の学習状況，つまり「点」ではなく，授業を継続して行う中で，突出した様子を「複数の点」から見取ったり，年間や学期といった時間的なまとまりの中での様子を「線」や「面」で見取ったりします。

道徳的価値の理解	ツ・1	断り切りを掛けた見直し	挫折から希望へ	人のフリサ	をはじめませ	さかなのなだ	運くにいた	トマトとメロン
多面的・多角的な考え	バ・2							
道徳的実践	キ・3							
生徒名								

校内研 → 道徳評価 → ツバキのみ

平田スペシャル の活用を。

1・2・3の数字を入れれば，セルの色が変わります。
「平田スペシャル」では，ワークシートの感想を入力するセルとリンクしており，学年末の評価に便利です。

※2 ワークシートには，スタンプ・アンダーライン・コメントなど，目を通したあとを残しましょう。道徳のファイルを準備し，毎時間のワークシートを綴じます。週末に学級通信等と一緒に持ち帰らせ，保護者さんに見せてコメントをもらうのも家庭との道徳教育の連携につながるかと思ひます。

※3 なるべく授業のあとに，感想集を作成しましょう。道徳ファイルに綴じさせたり，掲示板に貼るなどして，生徒が考えを交流する機会や，学びを想起する機会を作ってほしいです。

▲昨年度は，「全員掲載の感想集を作らねばならない」ことから，クラス全員の感想を入力する作業に追われ，手段が目的化してしまつた感があります。感想集は，負担になりすぎないように，いろいろかたちを変えてみてください。評価シートの入力も，授業者が変わらなければ，必要ないかもしれません。

感想集のモデルは↓

(共有 → ☆校務 → R3 → ☆校務分掌 → 08 校内研 → 01 授業準備フォルダ → 04 感想集)

(2) 日常を支える学習規律 (職員の共通理解)

① 上峰中の授業スタイル，指導形態 (学び合い活動) の工夫 (道徳を含む)

ア 思考・判断・表現を通して深い学びができるような (興味をひく) 課題，問いの在り方

※上峰中学校の学び合い活動の形態 (個→G→全→個)

イ 考えを深めていくための効果的な学び合い活動の在り方

(学び合い活動が有効と思われる単元・教材やグルーピング，取り入れる場面)

- ② 自主学習習慣確立のための家庭学習の在り方
- ア 学習クラスマッチの内容精選と定期考査へのリンク（定期テストでの活用問題の在り方）
（↑学芸委員会と相談）（実施困難になりつつあります）
- イ 自主学習ノートの活用法やテストへの取組の工夫
 - ・ テスト計画・実践表の学習のポイントとリンクさせる
 - ・ 教科の課題と自学ノートの連携
 - ・ BUノートの活用法（←学芸委員会と相談）

【本校の学び合い活動】

(1) 学び合い活動の定義（2019年度定義）

お互いの考えを伝え合い、聴き合って、自分の考え、知識・技能を広げ、高め、深める活動のこと

(2) 学び合い活動で育成させたい力について

※ 「学び合い」のある授業は、協働的な学び（メンバー全員が高まることが目標）を軸とする

「学び合い」で育つ力	詳細
① 理解が深まる	全体の中で友達や教師の説明を聞いているだけでは、分かったつもりでも過ぎて行ったり、分からないまま進んでいったりすることがあります。ところが、分からなくなったら、すぐに近くの友達に聴き返したり、分かるところまでもどって続きをていねいに説明してもらったりできます。分かったつもりの子がもう一度説明することで、あやふやな理解が明確なものになります。
② 思考力が育つ	友達の考えをよく聴いて、考えたことを発信することの繰り返しの中で、思考が深まったり広がったりします。
③ 学習意欲が高まる	苦手な子でも友達に教えてもらえて分かるようになり、みんなで協力しながら高まっていくので、「分かった」「できた」「おもしろい」につながります。
④ 説明力がつく	個人だけの取組ではないので、いつも仲間に分かってもらえるように説明したり、納得してもらえるように自分の考えを伝えたりすることが求められます。分かってもらえないときは、相手から反応があるのでさらに説明の仕方を工夫するようになります。
⑤ 表現力が高まる	仲間と共に考え話し合う中で、 思考の道具（言語） を活用します。思考の道具を用いて、より伝えやすい表現の仕方が工夫されます。
⑥ チーム力が高まる	問題解決に向けて力を合わせて頑張り、課題達成をしていく中で、自尊心の高まりや、仲間とつながった充実感が得られます。
⑦ 人間力が育つ	協働的な学びの中では、常に仲間のことを考え行動します。仲間が分かっていないようであれば、もう一度言葉を変えて説明します。仲間に成長が見られたら自分も共に喜びます。

(3) 本校の学び合い活動のポイント 5

- 1 自分の考えをもつ。【思考】
- 2 相手が分かりやすいように、自分の意見や考えを伝える。【表現】
- 3 他の人の考えをしっかりと聞き、その内容を理解する。【理解・思考】
- 4 「違うところ」や「同じところ」を見つけ、自分と他の人の考えを比べる。【判断】
- 5 他の人の考えを「修正（反論）」「付け加え（説明）」「意味づけ（納得）」し、自分の考え・思いを深める。【思考・判断】

(生徒提示用)

上中 積極的な学び合い活動 point5

- 自分の考えをもとう
- みんなに分かりやすく伝えよう
- みんなの話を理解しよう
- 自分の考えと比べよう
- 自分の考えを深めよう

(4) 学び合い活動の方法

- ア 単元・教材のなかで、学び合い活動をできるだけ行う。
- イ グループの人数、席の配置等については、自由とする。
- (ア) 司会者等の役割分担をしての人数4～5人による学び合い
- (イ) 役割分担をせずに人数4～5人による学び合いやそのローテーション
- (ウ) 離席しての学び合い（フリー） (図1参照) 等…
- ウ 生徒の理解度や思考等が可視化できるように名前札をできるだけ使う。(図2参照)



図1 フリーでの学び合い



図2 名前札

エ 授業の終末に学び合い活動についての評価を教師ができるだけ行う。

(教室掲示)

- ☆ 2分前着席
- ☆ 元気にあいさつ
- ☆ 元気に返事
- ☆ 注目傾聴

今日の流れ

- ① 復習・めあて
- ② 問1
- ③ 問2
- 学び合い
- ④ まとめ
振り返り

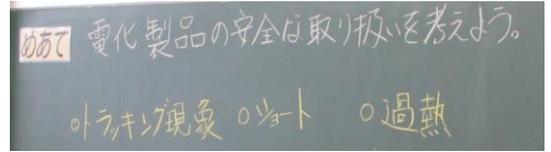
図4「授業の流れ」→

(1) 生徒指導計画より、本校の努力目標

- 「挨拶」の徹底 → 元気にあいさつ（授業始め・終わりのあいさつ）
- 「時間」の徹底 → 2分前着席
- 話を聴く姿勢、話の聴き方を身に付けさせる→注目傾聴

(2) 授業の流れと、ラミネートプレートの活用

- ア 「めあて」または「課題」の提示をする（図3参照）
- イ 「授業の流れ」を提示または書く（図4参照）
- ウ 授業の終末に「まとめ」や「振り返り」を行う



↑図3 「めあて」

6 今後の計画

期	月	日	曜	校内研究活動計画		学習評価に関する研修・協議
前	4	14	水	研究推進委員会	今年度の取組等について・学校訪問について・ふれあい道德について・指導案の形式検討（道德科）・提出の期限等	
		21	水	校内研究会①	今年度の取組について・学校訪問について（授業者と教材の決定；各学年から各1学級） ふれあい道德について	学校訪問について・指導案様式（各教科） ☆5/11（火）ベ切
	5	12	水	研究推進委員会	各学年の進捗状況， 学校訪問時の道德授業における指導案検討会	
		19	水	校内研究会	〃	講師招聘・研修会
		28	金	学校訪問	2年・3年から各1学級ずつ道德科の授業	
	6	9	水	研究推進委員会	各学年の進捗状況報告・学期の振り返り提案	
		16	水	校内研究会	〃	教科部会
	7	14	水	研究推進委員会	授業研究会の報告，1学期の振り返り	
		21	水	校内研究会	〃	
	8	未定	校内研究会	2学期の見通し		講師招聘・研修会
	9	1	火	研究推進委員会	学年部会の取組，授業の見直し，研究の重点についての確認	
		8	水	校内研究会	〃	教科部会
後	10	7	木	研究推進委員会	学年部会の取組の報告・地域公開授業について	
		13	水	校内研究会	〃	教科部会
	11	10	水	研究推進委員会	地域公開授業について・評価について	
		17	水	校内研究会	〃	
	12	15	水	研究推進委員会	授業研究会の報告・評価の記入方法について	
		22	水	校内研究会	〃	
	1	12	水	研究推進委員会	道德アンケートについて・校内研反省アンケートについて	
		19	水	校内研究会	〃	

	2	9	水	研究推進委員会	今年度の研究の振り返り・来年度の提案	
		17	水	校内研究会	”	
	3	未	水	研究推進委員会	研究のまとめ、次年度に向けた研究計画の検討、生徒・保護者アンケートの実施	
		定	水	校内研究会	”	

○学校訪問時の道徳科について

各学年1クラス実施。他の教科と同時に授業し、参観コースの中で見てもらうこととなります。T2の先生は、教科の授業参観もあります。ご負担が大きいかと存じますが、よろしくお願いします。

○ふれあい道徳について

~~全クラスで実施。ただし、参観できる保護者は各家庭から1名のみ。
 教室に入らず、廊下からの参観なので、その点をふまえて、なるべく保護者と生徒の交流をもたせる。
 その場における学び合い活動のやりとりだけでなく、ゲストティーチャーとして招いたり、当日の感想を便りに掲載し、生徒に読ませるなど、さまざまなやり方があると思います。各学年でご相談ください。
 …としておりましたが、中止になりました。~~